

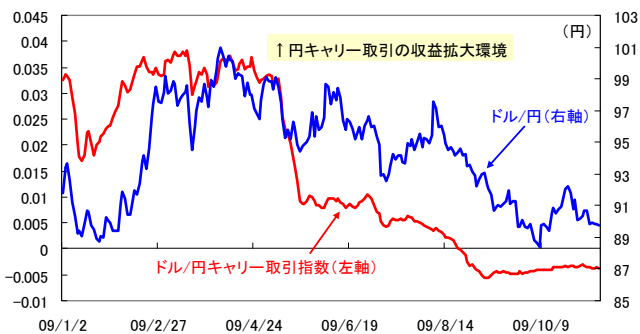
円キャリー取引（円借り取引）復活の環境とは？

✓ 為替相場の振れ幅が、より少なくなる局面においては、金利差を反映した円キャリー取引（円借り取引）が選好されやすくなる傾向。

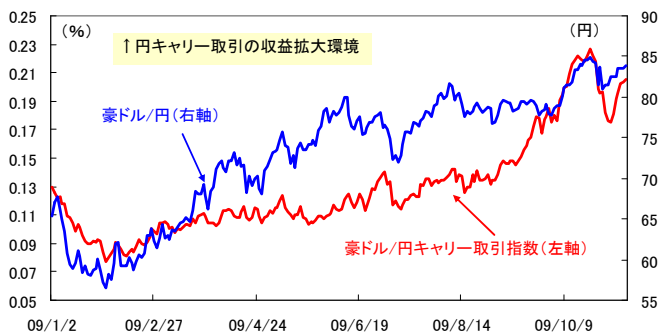
金利差が為替の動向と密接に連動する条件の一つは、為替の振れ幅（ボラティリティ）が足元のように低いということです。図表赤折線グラフは日本と米国の3ヶ月金利差をボラティリティ(※)で割った円キャリー取引指数です。この指数の値が大きい局面では、円キャリー取引に妙味があり、円安に振れやすい環境といえます。現状ドル/円で円キャリー取引をするのは両通貨とも金利が同程度に低いため、あまり整合的とはいえません。だから横ばいの展開になっているのかもしれない（図表①参照）。

図表②は豪ドル/円と、同円キャリー取引指数です。この指数の値が大きい局面では、円キャリー取引に妙味があり、円安に振れやすい環境といえます。現状豪ドル/円で円キャリー取引をすると、金利引き締め局面に入った豪州金利に対して、デフレ的な環境から抜け切れず、低金利を維持せざるをえない日本金利との金利格差が豪州優位となっているため、整合的に映ります（図表②参照）。

【図表①】



【図表②】



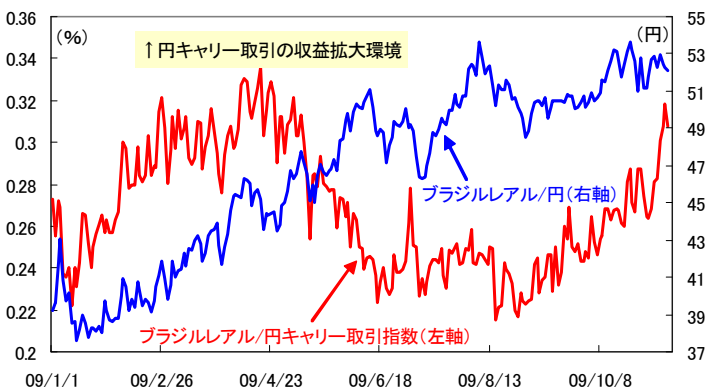
(※) 市場参加者が今後の相場変動をどのように考えているかを測る指標のひとつ。

出所:ブルームバーグ

出所:ブルームバーグ

図表③はブラジルレアル/円と、同円キャリー取引指数です。この指数の値が大きい局面では、円キャリー取引に妙味があり、円安に振れやすい環境といえます。現状ブラジルレアル/円で円キャリー取引をするのは、相対的な金利格差の優位性がブラジルにあり、整合的に映ります（図表③参照）。

【図表③】



出所:ブルームバーグ

ご留意いただきたい事項

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。
- 投資信託は値動きのある資産を投資対象としており、基準価額は変動しますので、これにより投資元本を割込むおそれがあります。ファンドによって投資対象資産や投資規制、投資対象国などが異なるため、リスクの内容や性質が異なります。また、投資信託のお申込時、保有期間中、およびご換金時には費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料に記載されている各指数、統計資料等の著作権・知的財産権その他一切の権利は、各算出先、公表元に帰属します。
- 当資料に記載されている内容は発行日現在のものであり、今後予告なく変更される場合があります。投資に関する最終決定はお客様ご自身でご判断ください。
- 当資料のグラフ・数値等は過去の実績であり、将来の市場環境の変動や投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。



ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第369号
加入協会:(社)投資信託協会、(社)日本証券投資顧問業協会

